ハイブリッド型闇バイト防止教材の開発

～情報伝達型教材と対話型教材の統合～

2232169　若杉咲良

指導教員：山崎治　准教授

1.はじめに

最近、闇バイトの被害が増大している。増大した要因としては SNS の普及により闇バイトの募集手口が広がったことが考えられる。政府が主導してまとめた「いわゆる『闇バイト』による強盗事件等から国民の生命・財産を守るための緊急対策」［首相官邸, 2024]では、闇バイトによる犯罪への緊急対策として、「多様な媒体を活用した被害防止に資する情報発信」や「青少年をアルバイト感覚で犯罪に加担させないための教育・啓発」などを含む様々な対策について具体的に提言されている。

2.目的

本研究では、SNS の普及により被害が拡大している「闇バイト」問題に対し、若年層を対象とした危機意識の向上および知識の定着に効果的な防止教材の特性を明らかにすることを目的とする。

具体的には、一方的に知識を提示し注意喚起を促す「情報伝達型」の教材と、ストーリーを通じて選択をさせて疑似体験を促す「対話型」の教材を組み合わせたハイブリッド型の教材を開発・評価する。

3.「闇バイト」啓発教材の制作

「情報伝達型」教材の作成にあたり、既存の 25 枚の啓発ポスターを用意し、共通点を洗い出した。その共通点を元に「闇バイトの例」「闇バイトの特徴」などを内容に含む計 5 枚のポスターを作成した。

「対話型」教材の制作には、ノベルゲーム開発用ツール「ティラノスクリプト」を用いた。情報伝達型教材に使用されている闇バイトの例を元に闇バイト募集に手を出してしまう物語を作成した。また、闇バイトをした人の周囲の反応を番外編で明示することにより、別視点を閲覧可能にした（図１）。

情報伝達型教材　　対話型教材

図１　制作した教材

4.実験　教材の違いによる効果の検証

4.1 方法

<u>実験参加者：</u> 大学生・大学院生合わせて 66 名が実験に参加した。

<u>実験計画：</u>「A 群:情報伝達型教材」「B 群:対話型教材」「C 群:ハイブリッド型教材（情報伝達型教材＋対話型教材）」の 3 条件を設け、1 要因 3 水準参加者間計画で実験を実施した。

<u>手続き：</u>実験はオンラインで行った。Discord や LINE を使い実験説明を行った後に事前アンケートを配布。その結果を集計し 3 条件に振り分け、条件に対応する教材を配布及び事後アンケートに回答を呼び掛けた。評価項目として各条件の評価項目 7 個及び共通の危機意識を図る質問を 10 個用意し 5 段階(1:全くそう思わない-5:非常にそう思う)で評価してもらった。また、知識テストとして闇バイトの知識を問う多肢選択式の問題を 10 題用意した。

4.2 結果

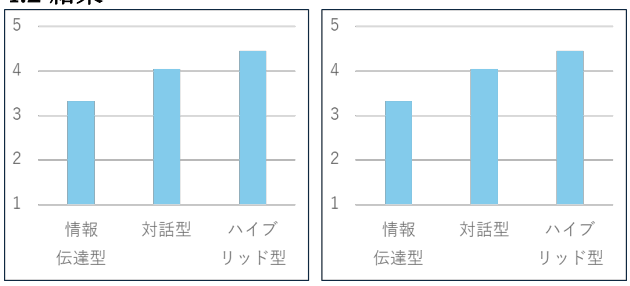

図２　アンケートの結果　右：身近／左：見抜き

闇バイトに関する意識項目のうち、闇バイトを身近な問題として捉える意識および誘い文句を見抜く自信の 2 項目で有意差が認められた（身近：$F(2,63)=5.52$, $p=.006$, $\eta2=.149$ ／ 見抜き：$F(2,63)=7.05$, $p=.002$, $\eta2=.18$）（図 2）。

多重比較の結果、前者では情報伝達型教材と対話型教材のそれぞれにおいてハイブリッド型教材との間に有意差が見られ、後者では情報伝達型教材とハイブリッド型教材の間に有意差が認められた。これらの結果から、ハイブリッド型教材は情報伝達型教材に比べ、闇バイトを身近な問題として捉えやすくなり、誘い文句を見抜く自信を高めることが示された。一方、知識テストについては平均値に大きな差は認められなかった。

5.まとめ

本研究では、知識を一方的に提示する情報伝達型教材と、選択を通じて疑似体験を促す対話型教材を組み合わせたハイブリッド型教材を開発し、その効果を検証した。その結果、ハイブリッド型教材は、各教材の特性を活かし知識の獲得と体験的学習を両立でき、理解の定着および闇バイトに対する危機意識の向上において、単独教材より高い効果を示す可能性が示唆された。

参考文献

首相官邸. (2024).「いわゆる『闇バイト』による強盗事件等から国民の生命・財産を守るための緊急対策」https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/kettei/241217/kinkyu_taisaku.pdf